イチゴ「いばらキッス」（仮称）および「ひたち姫」のうどんこ病に対する耐病性		
［要約］ 本県育成イチゴ品種「いばらキッス」および「ひたち姫」のうどんこ病に対する耐病性は、いずれも「とちおとめ」よりやや強い。		
茨城県農業総合センター園芸研究所	成果 区分	技術情報

１．背景・ねらい

イチゴ生産現場において、うどんこ病が果実に発生すると品質低下により出荷できず、収量の減少につながるため問題となる。うどんこ病に対する耐病性は、品種間差異が認められており、栽培上、重要な特性である。そこで、本県育成品種の「いばらキッス」および「ひたち姫」のうどんこ病に対する耐病性について検討する。

２．成果の内容・特徴

１）育苗期において、「いばらキッス」のうどんこ病の発病度および発病葉率は「とちおとめ」に比べてやや低い（表 1）。

２）本圃栽培期において、「いばらキッス」および「ひたち姫」の葉、果梗および果実におけるうどんこ病の発病度は「とちおとめ」に比べて低い（図 1、2）。

３）以上のことから、「いばらキッス」および「ひたち姫」のうどんこ病に対する耐病性は、「とちおとめ」よりやや強いと考えられる。

３．成果の活用面・留意点

１）「いばらキッス」は、品種登録出願公表中である。

２）罹病した葉や果実などは、ハウス内に放置せずにハウス外へ持ち出し、適切に処分する。

３）本病は、多発生すると防除が困難となるため、初発を確認したら薬剤防除を実施する。

４）耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を励行する。

４．具体的データ

表1　育苗床におけるイチゴうどんこ病の発病度[1)]および発病葉率の差異

品種名	調査項目[2)]	
	発病度	発病葉率(%)
いばらキッス	20.2	40.0
とちおとめ	27.6	51.3

1)発病度は、発病程度を0: 病斑を認めない、1: 病斑面積率が葉面積の5%未満、2: 病斑面積率が葉面積の5%　以上25%未満、3: 病斑面積率が葉面積の25%以上50%未満、4: 病斑面積率が葉面積の50%以上、とし、発病度＝Σ(発病指数×発病指数別葉枚数)×100/(最大発病指数×全調査葉数)、から算出した。なお、調査葉数は、1反復あたり100枚とし、3反復調査を行った。
2)育苗中のイチゴ苗に自然発生したうどんこ病を平成22年7月7日に調査した。うどんこ病の薬剤防除は平成22年6月11、17、29日に行った。

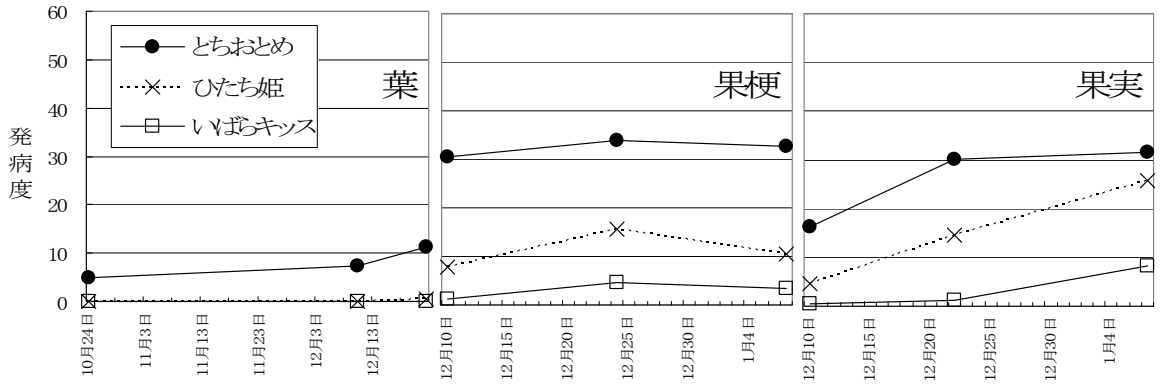

図1　本圃栽培期における各品種のうどんこ病の発病度の推移(平成20～21年、所内高設栽培圃場)

発病度は、発病程度を0: 病斑なし、1: 病斑面積率5%未満、2:　病斑面積率5%以上25%未満、3: 病斑面積率が葉面積率25%以上50%未満、4: 病斑面積率50%以上、とし、発病度＝Σ(発病指数×指数別株数)×100/(最大発病指数×全調査葉数)、から算出した。なお、調査株数は、各区10～30株の2反復とし、自然発生したうどんこ病について調査を行った。うどんこ病の薬剤防除は平成20年12月5、26日に行った。

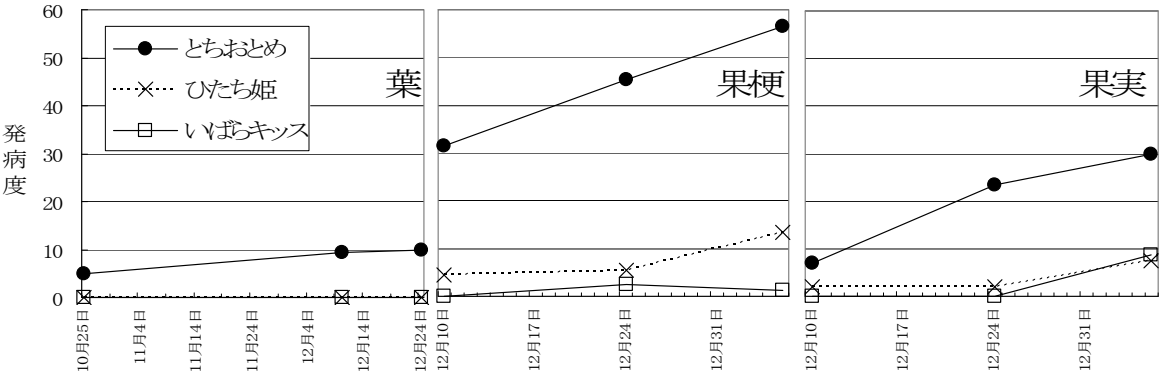

図2　本圃栽培期における各品種のうどんこ病の発病度の推移(平成22～23年、所内高設栽培圃場)

発病度の算出及び調査株数などは、図1に同じ。なおうどんこ病の薬剤防除は平成22年12月27日に行った。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

農作物有害動植物発生予察事業・昭和 43 年度～(平成 20～22 年度)・病虫研究室